

文字と発音の指導法

趙 義 成 (チョ・ウイソン)

1. はじめに

韓国語学習において、文字と発音の学習は文字通り全ての学習の「出発点」である。学習者がここを無事通過するか否かにより、その後の学習が大きく左右されると言っても過言ではないであろう。

外国語の学習は、異なる発音、異なる文法、異なる語彙（場合によっては異なる文字も）を習得することであるが、韓国語を学ぼうとする日本語母語話者は、たとえ初めて韓国語に接する者であっても、全く無の状態から学習を始めるわけではない。学習者は自らの母語である日本語を基軸に据えて、新たに習得しようとする韓国語が日本語とどこが同じでどこが異なっているのかを確認しつつ学んでゆく。文字と発音の学習もこの例に漏れない。このことを、韓国語教師は何よりもまずしっかりと認識しておく必要がある。したがって、韓国語教師に求められることは、学習の対象となる韓国語に精通していることはもちろんのこと、学習者の母語である日本語にも精通していることが求められる。

本稿は入門期の日本語母語話者の学習者に対する文字・発音の指導法に焦点を当てて、全編を貫く主題は以下のものである：

- (1) 母語である日本語を最大限に活用した教授法
- (2) 学習者の心理的負担を最小限に抑える教授法

学習者が韓国語の音を習得する際には、必ず母語である日本語の音から出発する。日本語の音を利用することなしに、適切かつ効果的な指導は望めない。従って、(1)は発音指導の根幹ともいえる。また、慣れない未知の言語音に対する学習者の不安感を軽減することは、学習者のモチベーションを維持する上でも重要である。そして、両者を踏まえて、最小限の労力で最大限の学習効果を引き出す発音の教授法・学習法は何かが本稿のテーマである。

2. 母音の指導

2.1. 母音を学ぶ順序

母音の文字と発音は、韓国語学習のまさに「第一歩」であるが、上で触れたように、学習者は何よりもまず母語である日本語を土台に据えて学習を始める。したがって、学習者がまず知りたいことは、韓国語の母音が日本語の母音とどう異なるのかということである。そのニーズに応える教授法の1つとして、下の【表1】のような順序で母音を指導するものがある。

【表1】日本語母語話者の学習者のための母音の学習順序の一例

学習順序	母音の種類	(ア)	(イ)	(ウ)		(エ)		(オ)	
1	単母音	ㅏ	ㅣ	ㅡ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	
2	/j/+単母音	ㅑ			ㅖ	ㅜ	ㅠ	ㅠ	ㅠ
3	/w/+単母音	ㅓ	ㅕ			ㅗ/ㅛ	ㅜ		ㅠ
4	二重母音	ㅑ							

まず、単母音を初めに提示することで、「韓国語には(単)母音がいくつあるのか」という学習者のニーズに即応することができ、¹⁾韓国語の母音を日本語のアイウエオ順に並べることにより、学習者は日本語の単母音との関係を一目で知ることができる。²⁾同時に、「ㅡ, ㅓ」、「ㅕ, ㅜ」、「ㅗ, ㅛ」は注意が必要だということも分かり、どこに重点を置くべきかを学習者自らが自律的に認識しうる。「学習順序2, 3」では半母音/j/, /w/が前接する母音を学ぶ。「ㅏ-ㅑ-ㅓ」のように主母音別に列を揃えて提示することで、それぞれの音の関係はもちろんのこと、字形の関係も知ることができ、母音体系の全体像を体系的に把握しうる。

このように見たとき、「ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅜ, ㅗ, ㅛ, ㅡ, ㅓ, ㅣ」という反切表の母音順序による指導はあまり効果的でないことが分かる。³⁾教師から見れば、ある意味「当たり前」のこのように受け取ってきたこの母音配列も、初めて韓国語に接する学習者にとっては実は難解な配列なのである。あるいは、辞書を引

- 1) 8つの単母音を先に提示する学習書として、梅田博之・金東俊(1989)、塚本勲・長谷川由紀子(1998)、生越直樹・曹喜澈(2000)などがある。
- 2) 単母音のアイウエオ順に並べた学習書として、梅田博之(1985)、権在淑(1995)、長谷川由起子(2002)、野間秀樹・村田寛・金珍娥(2004)などがある。
- 3) すなわち、(1)単母音と半母音付き単母音が混ざっていて紛らわしい上に、(2)だからといって全ての単母音が提示されているわけではなく(ㅕ, ㅜが抜け落ちている)、また(3)全ての半母音付き母音が提示されているわけでもない(ㅕ, ㅜ, ㅗ, ㅛなどが抜け落ちている)ので、韓国語の母音体系がどうなっているのか、それが日本語とどう違っているのかを全く知ることができない。

くときに反切の順序を知らないと不便だと思う教師がいるかもしれないが、初學者の学習は辞書を必要としない学習形態をとるべきであり、学習が進んで辞書を引く必要が生じた段階に至って初めて反切の順序を教えるも何ら遅くはない。⁴⁾

2.2. 個々の母音の発音指導

学習者は母語である日本語を基にして個々の韓国語の音を作ってゆく。したがって、発音指導はできるだけ日本語の音を活用しながら進めることが望ましい。例えば、/ㅏ/、/ㅑ/は日本語の/ア/、/イ/と音声的にほとんど差がなく、他に混同しそうな母音もないので、日本語の/ア/、/イ/をそのまま流用して何ら支障がない。むしろ、日本語の音を度外視して無から音作りを行なうような発音指導をすると、学習者が不自然な口の構えをしてかえって学習効率が低下するおそれさえある。

また、現代ソウル方言ですでに用いられなくなってきている音は、あえて指導する必要もないであろう。/ㅓ/と/ㅕ/は老年層においてこそ[e], [ɛ]という違いがあるが、非老年層ではすでに両者の区別がなくなり、日本語の/エ/に似た1つの音で発音されている。⁵⁾ 韓国語母語話者の教師の場合、教師自身すら区別ができないのにこの2つを無理に異なる音として教えることは、かえって現場に混乱を引き起こすことになるであろう。/ㅗ/の長音[ɔ:]についても同様である。

/ㅜ/と/ㅠ/については、日本語の/ウ/の音声に注意しつつ指導する必要がある。日本語の/ウ/は、東京方言など東日本の諸方言では概して/ㅜ/に類似する非円唇母音[ɯ]で現れ、⁶⁾ 京都方言など西日本の諸方言では概して/ㅠ/に類似する円唇母音[u]で現れる。これはすなわち、東日本方言話者は/ㅜ/の発音は比較的容易であるが/ㅠ/は難しく、西日本方言話者は逆に/ㅠ/より/ㅜ/の発音が難しいことを意味する。このように学習者の母語の特性に注意し、的確に指導するのが望まれる。学習者の母語の/ウ/を確認するためには、クラス内の学習者全員に「うさぎ」のような日本語の単語を発音させてみて、「う」を非円唇の[ɯ]で発音する学習者には/ㅠ/に多くの注意を払わせ、反対に「う」を円唇の[u]で発音する学習者には/ㅜ/に多くの注意を払わせるように指導をするのが効果的である。

4) ついでに言えば、辞書の順序は「ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, …」ではなく、「ㅏ, ㅓ, ㅑ, ㅕ, …」である。「ㅏ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, …」を覚えても、結局は辞書を引くための母音の順序を再度覚えなければならない。

5) 知識として「以前は異なった音だった」ということを教えるもよかるうが、実際の指導ではともに同じ音として扱うべきである。

6) より正確に言えば、完全な後舌よりもやや前よりの[ɯ]である。

ㅟは日本語の/オ/に近いが、東日本の諸方言では唇の丸めがやや弱いので、そのような学習者には意識的に唇を丸めるように指導するのが望ましい。

ㅟは日本語の主要な方言には類似する音がなく、日本語母語話者が最も発音しにくい母音である。この音の指導には、口の開きの度合いや唇の丸め具合など物理的に音を確認しながら指導するのが望ましい。具体的にはㅟ(あるいは日本語/オ/)を基にして、以下のように指導する方法が考えられる。

ㅟはㅜに比べ唇の丸めが弱い。従って、まず唇に力を入れず緩め、口を「半開き」の状態にする。次に、この母音はㅜよりも口の上下の開きが大きいので、下あごを下げて口を上下にやや大きく開くように指導する。このとき、ㅟのよう大きく開いてはいけない。ちょうどㅟとㅜの間程度の開きである。このように、ある母音(ここではㅜ)を基準として音を作っていけば、ㅟの発音もさほど困難なくできるのではないだろうか。

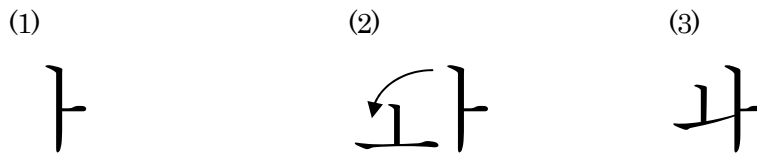
2.3. 母音字の指導

ハングルという文字を読み、書く作業は、初めて韓国語に触れる学習者にとって、発音の学習に劣らず労力を要することである。個々の字母を学び、字母を合わせて1文字にする際に、文字が正しく書けているか、字形に均整がとれているかを学習者が独りで判断するのは難しい。ハングルを書くことが韓国語学習の一環である以上、この点についても教師は学習者のよき指南役になりたい。

母音字の指導において注意すべき点は以下のようなことである。

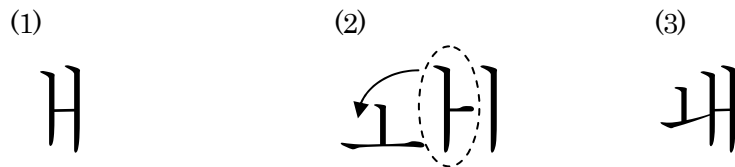
- ・「ㅏ」の短い横棒を「ㅑ」のように下がり気味に書いていないか。
- ・「ㅓ, ㅕ」の縦棒が短すぎないか。
- ・「ㅗ, ㅛ」の左側の縦棒を右側の縦棒より短めに書いているか。
- ・「ㅜ, ㅠ」を書く際に「ㅟ, ㅠ」の横棒が「ㅓ」の下に入っているか。

「半母音+母音」を表す字母のうち半母音が/w/であるものは、「ㅜ」を含む字母(ㅜ, ㅠ, ㅠ)と「ㅓ」を含む字母(ㅓ, ㅕ, ㅕ)があり、字形を覚えるのに初学者は非常に困難を覚え、実際に誤って書く事例がすこぶる多い。これに対処するために、以下のような指導法を用いると極めて効果的と思われる。



- (1) 主母音の「ㅏ」を示す.
- (2) 「ㅏ」の縦棒の下端を軸にして、左横方向に倒すと「ㅑ」になる.
- (3) 「ㅑ」と「ㅏ」を1字にすると「나」となる.

この方法で「나, ㄴ」が容易に説明できる。「내, ㄴ」についても説明は基本的に同じである.



- (1) 主母音の「ㅐ」を示す. この字母が「ㅏ+ㅑ」という組合せであることを同時に述べる.
- (2) 「ㅐ」の左側の「ㅏ」の部分のみを左横方向に倒すと「ㅑ」になる.
- (3) 「ㅑ」と「ㅐ」を1字にすると「내」となる.

文字と発音の指導において、教師がとりわけ注意しなければならないことは、文字と発音を決して混同してはならないことである。字母「ㅐ」は文字としては字母「ㅏ」と字母「ㅑ」が組み合わさった合成字母であるが、表す音は単母音[e]である。このときに、文字としての「合成字母」と音としての「二重母音」を混同し、「ㅐは二重母音である」などと指導してはならない。このように混同した説明を聞いた学習者は「‘二重母音’なのになぜ[e]という音なのか」と混乱すること必定である。同様に、母音字母は合成字母を含めて合計21個あるが、だからといって「韓国語には母音が21個ある」などと教えるのは愚の骨頂である。⁷⁾教師が混乱した指導をすると、それはそのまま学習者の混乱を引き起こすということを肝に銘じなければならない。

7) そもそも、単母音が5つしかない日本語を母語とする学習者が「韓国語の母音は21個」と聞いた時点で、前途漠々として思いに駆られて学習意欲を一気に失うであろう。